

平成30年北海道胆振東部地震 (三次元地震波速度構造による震源分布)

- 本震および余震は東側の低速度域と西側の高速度域の境界付近で発生。
- 表層の観測点補正値を考慮した三次元地震波速度構造を用いて再決定することにより、震源は4km程度浅く決められる。
- 地震活動は主にP波速度が7.5km/sよりも遅い領域で活発であり、地殻内で発生していると考えられる。

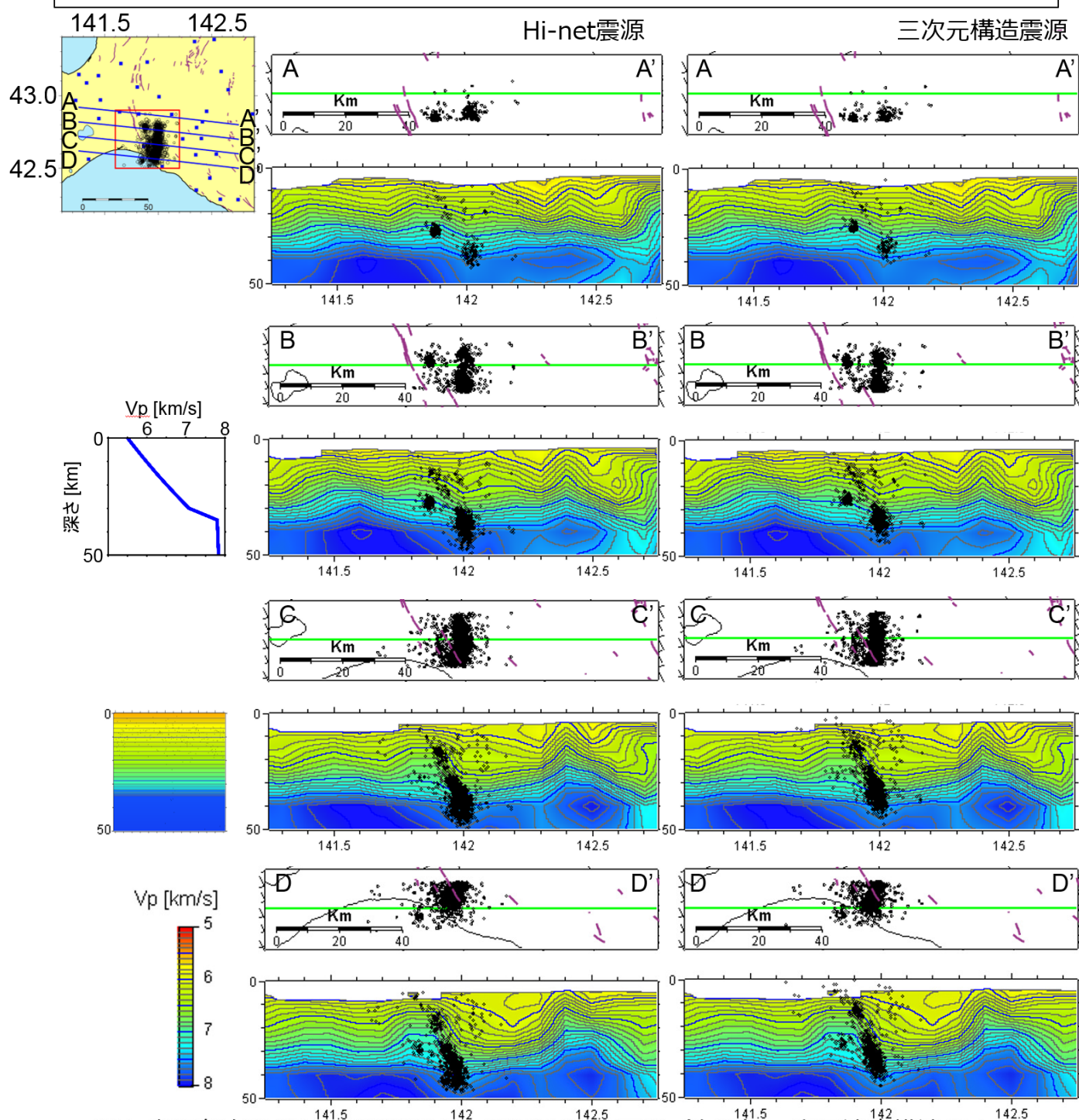


図1 赤四角内における2000/10/1～2018/9/13までの（左列）一次元速度構造により決められた防災科研Hi-net震源と（右列）Matsubara et al. (2017)による三次元地震波速度構造により再決定した震源の±10kmの分布。